

H28年9月会山行

「きびしかった羅臼岳」

H28年9月16日(金)～9月18日(日)

10人乗りレンタカー1号車10名、2号車8名+共同装備も「余裕」1号車「ワイワイ」「ガヤガヤ」「アッハハー」しゃべる、しゃべる「車も人が多く乗って、荷物を載せて、人がしゃべるとガソリン喰う」1号車男3人女7人、2号車男6人女2人、途中で給油1号車490、2号車530! 変「2号車のW氏1号車の女性7人打ち負かす？」

ウトロに入ると「いるかも?」「トド?」「熊?」「いや鹿」などと言う会話、鹿ならどこにでもいる!

「気づかいだ」「気づかいだ」など言っているうちに木下小屋鍵が掛かっている、30分程待つ間に食事当番が始動[早]管理人がバイクで帰って来た「郵便局に行ったらバイク故障して申し訳ない」と、こわもての「スキンヘッド松山千春」外のテラスで夕食後、早寝、土、日荒天予想により「明日登山決行」



翌日2時30分起床、4時雨の中体操後出発、真っ暗な登山道に18人のヘッドランプの列、さすが登別山岳会「熊など蹴散らす勢い、トップ気持ちいい」「6時を過ぎると雨が上がる」と他の登山客の話だが一向に雨やまず、弥三吉水一銀冷水と水場を過ぎ大沢を通過、羅臼平前の急登岩場、風が強くなり「風が身体を冷やす」8時40分リーダー会議で「もうだめ、これ以上行くと犠牲者が出るかも撤退」少々オーバー?

後でメンバーの言葉「死にそうだった」「あのまま行ったら死んだかも」「低体温症になりそうだった。ツアーの鉄則「全員が満足いく撤退」OK!

頂上に行った登山者の話「頂上4℃で風が大変強く、ザックカバー飛ばされ、写真だけ撮って帰って来た」追い越して戻って来たカップルの話「三ツ峰のテマ場まで行ったが、前が何も見えなく帰ってきた」木下小屋に戻り、皆「ほっとする」濡れた身体を露天風呂で温め、安眠。



3日目はザック、登山靴も濡れ、天気も良くない予報



次に知床5湖の1湖をトレッキング、そのころには羅臼岳も雲の中、「はいパチリ」
 知床自然センターで教養を高め、知床100平方メートル運動
 [俺の名前ある3000円]「私の土地5000円」
 1730は金無し、土地無し「無言」

なので、早朝観光してから帰ることに決定、
 管理人に帰りの挨拶、なぜか良い人「松山千春」に
 大変身、青空は出ているが気温が低い、まずは知床峠
 から羅臼岳を見ようと出発、峠に来ると一段と寒く皆
 ぶるぶる、羅臼岳も雲がまとわり付く。



小清水温泉ふれあいセンターで入浴、食事、会計清算、
 その時、食い逃げ事件「発生」・・・入口で容疑者
 [逮捕]それも「3人！」前代未聞、みんな大笑い、
 容疑者を擁護すると、Mさんが席を確保した時、店員
 の「支払いは？」に「それぞれ」と言ったのだから、
 レシートは各自にもって来るべき、レシート類がテー
 ーブル上に何もなかったのだから、進んでいる我々
 には有りがちな事「でも3人も」

1号車帰りの車中、山岳小説「登別山岳会羅臼岳遭難
 物語」を作り上げる、作者不明、編集 Jちゃん、T
 女史、Tっ子さん、T川さん、主役S山さん、わき役
 その他多勢、今回のあの条件で縦走したなら、遭難し
 たら、生き残れるのはS山さんだけ、
 「風呂の温度を調整するのに窓を開け雪を使った」
 過酷な生活を経験しているだけに生き残れるだろう、
 それに尾ひれが付き「大発展」監修S田リーダー。

そうこうしているうちに1日早い帰還となる、
 参加者の皆さん、各坦務の方「お疲れ様でした」

家に「帰りたくない！」の言葉が多数あり、
 「山登りより過酷な生活をおくっている人が？」

